

一年学年だより

No. 12

3月号

令和7年3月3日

1年学年主任

学問ノススメ中央高校ver.

前任校で生徒会誌に書いた内容の中央高校バージョンです。

大好きな映画があります。「たそがれ清兵衛」という時代劇で、幕末の北陸の小さな藩が舞台です。主人公は、とても貧乏な下級武士で、のっぴきならぬ事情で藩のお尋ね者を討伐する役目を与えられ……みたいな感じです。主演は真田広之さん。昨年・今年とアメリカでエミー賞、ゴールデングラブ賞を受賞し、一躍時の人になった俳優さんです。真田さんはもともとJAC（ジャパンアクションクラブ）というアクション俳優マネジメント会社出身なので殺陣（たて）がきれつきれで、それはそれはカッコいいのです！ もちろんそれだけが理由ではないのですが、もう軽く2ケタ回数は見ている家族にもあきれられています……でも、たぶん誰も興味を示さないだろうな、いい映画なのにな……

さて、その映画の、とあるシーンで、清兵衛の娘が彼に質問をする場面があります。娘は寺子屋に通っているのですが、学問をする意味が分からなくてこう尋ねます。劇中ではかなりなまっているの、標準語書きします。

「お父さん、お針のけいこをして着物や浴衣が縫えるようになればそれは役に立つけれど、学問は何の役に立つんだろう……」しばらく考えて清兵衛はこう答えます。「確かに学問は針仕事のように役に立たないかもな。でもな、学問すれば自分の頭で考える力が付く。これから時代がどんなに変わっても自分の頭で考えられれば、生きていける。分かるか？」娘は納得して「はい！」と答えます。

皆さんにも「考える」クセをつけてほしいと思っています。

授業をしていて、熱を込めて説明して、「な！そういうことなんよ！」って大満足で締めくくったら、「先生、結局答えは何ですか？」「ズコー……」みたいなことを何回も経験しました。たぶんちゃんと聞いてくれてはいるんでしょうが、考えてはいない。それがそんな発言の原因じゃないかと思うのです。

便利な時代になりました。知らないこともすぐに教えてくれる頼もしい存在があります。パソコンやスマホのおかげで助けられることは多いです。「分かった！」は安心を与えてくれます。でも、それって本当に「分かった！」なんのでしょうか。ミステリー系の小説でも漫画でもアニメでも、主人公の探偵なりが「犯人が分かりました！」って言いますよね。ま、じゃないとその作品、終わらないから当たり前ですが……彼ら主人公は、事実を積み上げ、背景を分析し、推理し、結論に達します。まさに「分かった！」ですよね。皆さんにお願いしたいのは、そういうことなんです。ただ単に物事を知って「分かった」気になるのは、何か違うと思うんですよね……

愛媛大学の鈴木先生のお話を聞く機会を何度もいただきました。その度に鈴木先生は「"What?"じゃなくて"Why?"の視点が大事なんだ。」って仰ってましたよね。まさにそういうことなんだろうと思います。正解にたどり着かなくてもいいじゃないですか。自分の頭で考えた経験は、必ず次の"Why"につながります。

英コミの教科書Lesson8に出てきましたね。"In the future society with advanced technology like artificial intelligence (AI), your dream job may no longer exist." もしそうだとすると、自分の頭で考えられる人はきっと生き残れません。自分の未来は、きっと自分でしか切り開けないでしょう。そのためにも、自分の頭で考えられる人になってほしいと思っています。

偉そうに言っていますが、私自身も同じです。皆さんに負けないように、私も「学問」しなければ！

(あ、また清兵衛見よっ♡)